

● 新約聖書のヨハネ福音書

「人その友のために命を捨つる。これより大いなる愛はなし。」

小生が東富士演習場畑岡以南に向かうとき必ずと言って良いほど、通過するのが、県道五本地御殿場線であり、その印野小学校を通過してすぐ、道路に面したこんもりした台上に忠霊塔が建立されている。

忠霊塔と言ひ、忠魂碑というものは、戦死者を慰霊するために建立されたものであることは自明の理であるとしても、その建立等の経緯や御殿場・小山地区に如何ほど建立されているのか恥ずかしながら、殆ど承知していなかった。

日露戦争以前には、記念碑、招魂碑と呼ばれるものが建てられたが、忠魂碑として日本全国に普及していくのは日露戦争以後のことである。大正天皇、昭和天皇の即位記念事業として、各市町村の在郷軍人会が献金を募集し、小学校の一角に建立したものが多し。1939年7月には、大日本忠霊顕彰会が発足し、その指導によって戦死者の遺骨を納めた忠霊塔を各市町村に一基ずつ建設するようになった。戦後は、軍国主義・国家主義の象徴とでもあるとして撤去されあるいは埋められた。しかしながら1950年代にその多くが、遺族会などの手によって復元もされ、戦友会などによる建碑も行われた。（参考：百科事典）

これによると忠霊塔は、各市町村に一基建立されており、しかも遺骨が納められている。忠魂碑というのは、忠霊塔が建立される以前、則ち日清・日露の戦役や支那事变等における戦死者の霊を慰めるためのものである。では当地域はどうかだろうか。日本列島が「終戦の日」を中心として鎮魂の季節を迎えた今、忠霊塔等を訪れ、英霊に哀悼の誠を捧げ、戦陣に散り戦火に倒れた先人に思いを致し、来るべき時代が平和であることを祈念し、そして、地域の人々が忠霊塔等にどのように接しているかを探ってみるのも意義あることであろう。

I 御殿場市の忠霊塔又は忠魂碑

御殿場市は、昭和30年2月に御殿場町と富士岡、原里、玉穂、印野の4村が合併し、翌31年には高根村を編入、翌々年に小山町の大字古沢を編入して現在に至る。従って、嘗ての町と村である6地区には忠霊塔が存するはずである。因みに各村は現在の各財産区に相当する。嘗ての村の共有の基本財産等の管理及び処分権限を有している。（地方自治法）

（尚、以下に示す各忠霊塔等のデータは実地調査による。蛇足ながら、大半は8月15日に参拝を兼ねて調査した）

- 印野の忠霊塔 本庄大将の揮毫 昭和16年建立、顕彰墓碑側に忠魂碑 奥保たか大将揮毫、戦没者37名、明治42年建立
- 原里の忠魂碑 明治41年建立、終戦後忠霊塔をも併設、コミセン建設に伴い忠魂碑として一新、昭和59年、脇には、徴発軍馬慰霊碑有り
- 玉穂の忠霊塔 井上繁太郎陸軍大将揮毫、日清戦役以後の戦没者、玉穂財産区

昭和15年3月10日建立 玉穂小学校横及び玉穂官舎向かい、戦没者慰霊の塔有り。

- 高根の忠魂碑 西南の役以後の戦役・事変等の戦没者、高根地区戦没者追悼塔
- 旧御殿場町の忠霊塔
昭和17年起工、翌年竣工。旧御殿場町出身者西南の役以来の戦没者390余柱祀る。御殿場小学校敷地内。「終戦に伴い忠霊塔も埋蔵隠匿を余儀なくされ血涙を飲んで秋（とき）の熟するを待つ・・・昭和27年4月28日
・・・再発掘復元・・・爾来追悼祭・・・昭和50年改修・・・、英霊の万古不滅の遺徳偉勲と祖国愛の崇高な日本精神を称賛し、近くは己の心の糧とし、遠くは未来永劫の日本人の鑑として慰霊追悼祭の耐えることなきを期し、伝統保守、郷土新興繁栄の定礎に資益しようと・・・」（昭和50年11/16）以上改修詞から。御殿場の何れの忠霊塔も同じであるが、小さい子供達にも解るように写真のような説明板が設置されている。

- 富士岡の忠魂碑
やっと所在を確認することが出来た。246号と東名高速に囲まれた田圃の中、朽ちかけた公民館らしき所の庭にそれはあった。あまり手入れもなされていないようだ。一寸残念也。

これまでのところ、忠霊塔も忠魂碑も全く同様のものとして扱われていると考えて良いようだ。

II 小山町の忠霊塔又は忠魂碑等

- 須走護国神社
西南の役から前の大戦に至る間の須走の戦没者24名が祀られている。内・外の玉垣、鳥居、神社名の標柱は、須走彰徳山林会の献納になるもの。
護国神社制度は、1939年（昭和14年）施行、府県社以下神社に関する一般神社制度が適用された。以前は招魂社と称されていた。因みに現在の靖国神社は東京招魂社を前身とする。指定護国神社と指定外護国神社に区分される。指定護国神社は、府県社に相当する社格を持ち、神社に合祀する祭神の範囲が神社所在の該当府県一円と規定され、一府県一社を原則として社名に某県護国神社都府県名を冠することとなっていた。
指定外護国神社は、村社相当の格で、今まで神社を維持運営してきた崇敬者区域を祭神合祀範囲にした。須走護国神社は言うならば、この指定外護国神社である。神社域は須走の大申学の提供になるものであり、現在ではその管理を須走区長会が行っている。
去る15日にお参りに訪れた際には、神前に「米、塩、卵、酒、水」がお供えしてあった。

- 小山町の忠霊塔
小山町では、戦没者の霊を慰めるべく昭和17年11月より、12万円の巨費を投じて、豊門グラウンド内に忠霊塔の建設に着手し、在郷軍人会や学童等も加わっての勤労奉仕で建設工事が進められた。結局敗戦による混乱で工事は中断され、その完成は

戦後の昭和28年まで待たねばならなかった。（小山町史から）

小山・御殿場地区の忠霊塔等



印野の忠霊塔



原里の忠魂碑



玉穂の忠霊塔



高根の忠魂碑



旧御殿場の忠霊塔



忠霊塔の説明板



富士岡の忠霊



須走護国神社



小山町の忠霊塔